

経済為替ニュース

SUMITOMO MITSUI TRUST BANK, LIMITED FX NEWS

第2215号

2014年06月16日（月曜日）

《 has considerable momentum 》

大波ではないが、少し“波紋”が生じたとも思える過去一週間のマーケットでした。その波紋の中には

1. 全体的な低金利状態の中で、十分見込まれた措置ではあるにせよニュージーランドなど一部の国が利上げを行ったこと
2. イギリスのように年内をメドに当局も、そしてマーケットも利上げを想定する国が先進国の中に出てきたこと
3. 従来からのウクライナに加えて、マーケットにとっての地政学的リスクを感じさせる「政情不安」がイラクで生じ、持続的な上昇を懸念するほどではないものの、久しぶりに「主要資源価格である石油の価格上昇現象」が見られたこと

が入る。「1」は先週も書いたが、この低金利時代の中にあって「利上げ」を行った通貨（ニュージーランド・ドル）、または今後行う可能性がある通貨（ポンド）に対する買い気は強い。それが改めて証明された。利回りを狙った投資の特徴は、しっかりとその対象（今回の場合は通貨）に資金を張り付けるということで、豪ドルを含めてこれら思惑の対象となった通貨は、じわりと上昇基調を維持したのが特徴だった。

NZ準備銀行の新しい政策金利は0.25%上がって3.25%。これは5年ぶりの高い水準で、同準備銀行は利上げに伴う声明の中で「建設セクターを中心にインフレ圧力が増しつつあり、交易条件と移民の増加が成長を下支えている」と同国経済に関して述べている。むろん通貨高がインフレ圧力を相殺している面はあるが、「この状況では、インフレ期待を引き続き抑制し、金利を一段と中立水準に戻すことが重要だ」というのが準備銀行の立場。ニュージーランド・ドルが大幅に上がった場合は利上げ効果と同じなので利上げペースを落とすこともあるが、基本は同国経済の先行きには強気で、今の金利水準は「中立」に達していないとの立場だ。

なので、同国住宅市場の活況などを背景に「今後も利上げが続く」との観測が根強い。そもそも農業が経済の中心であるニュージーランドは、農産物価格の世界的な高止まりと需要好調の中で交易条件が良い。食糧輸入は先進国だけでなく途上国でも盛り上がっており、通貨高にも関わらず同国の輸出は堅調に推移している。声明とは別にウィーラー準備

銀行総裁は「New Zealand's economic expansion has considerable momentum and it is important that inflation expectations remain contained and that interest rates return to a more neutral level」と述べている。今後も同国の利上げは続くとするのが妥当だろう。

一方「2」のイギリスの環境を見ておく。イングランド銀行は12日公表のインフレ報告で、2014年の国内総生産（GDP）伸び率が3.4%（従来予想2.8%）になるとの見通しを示すなど、向こう3年間の経済成長率見通しを大幅に上方修正した。これで俄然高まっているのが「利上げ予想」である。ECBが「さらなる緩和措置」を見込まれている中で、利上げ観測の高まり。当然ポンドは先週も堅調推移した。

《 so far small repercussion 》

マーケットは無論のこと、「久しぶりに主要資源価格である石油の価格上昇現象」が見られたことにも注目している。しかしこの原油価格上昇は、アメリカを先頭に世界の株式市場が投資家の不安を誘うほどに、じわじわと高値を迫る中で生じた。それ故に、実際に起きている事以上に相場に「材料」を提供した面もある。地政学的リスクを理由に「一調整できた」と思った投資家も多かったようだ。

北からISISともISILとも表記されるイスラム過激派武装集団が武力侵攻してきているイラクの情勢が、今後どう動くかは予断が許されない。一時はモスル（イラク第二の都市）を経てバグダッドの方向（南）に進行し、ティクリット（サダム・フセインの生誕地）を制圧したとも伝えられたが、その後マリキ政権がシーア派指導者の呼びかけもあって反撃しているとの報道もある。今後アメリカの対応が決まるし、同じシーア派の国であるイランがマリキ政権を支持するのではないかとの見方もある。イラク情勢は流動的だ。

筆者はイラク情勢故に世界の原油市場が大きくバランスを崩すとは見ていない。イラクから出てくる石油の量は相変わらずそれほど大きくないし、今はエネルギー革命が進行中で、原油価格が上がるとオイル・シェールの生産が増えるなどの構造になっている。しかしこれも「波紋」であることは確かで、今度どのような広がりを見せるかは注視しなければならない。

今週の主な予定は以下の通り。

06月16日（月曜日）

金融経済月報

インド5月卸売物価

米6月ニューヨーク連銀景気指数

4月対米証券投資

米5月鉱工業生産

米6月NAHB住宅市場指数

06月17日（火曜日）

オーストラリア中銀理事会の議事録

	オーストラリア 5 月新車販売
	5 月マンション市場動向
	英 5 月消費者物価
	独 6 月 ZEW 景気予測指数
	欧州 5 月新車販売
	米 5 月消費者物価
	米 5 月住宅着工
	米 FOMC (~18)
0 6 月 1 8 日 (水曜日)	5 月貿易統計
	1~3 月資金循環統計
	金融政策決定会合の議事要旨
	5 月百貨店売上高
	5 月訪日外国人数
	中国 5 月主要 70 都市住宅価格
	タイ中銀の金融政策委員会
	英イングランド銀金融政策委員会議事録
	米 1~3 月経常収支
	米 FOMC の結果発表
0 6 月 1 9 日 (木曜日)	ニュージーランド 1~3 月期 GDP
	ユーロ圏財務相会合(ルクセンブルク)
	英小売売上高
	米新規失業保険申請件数
	米 6 月フィラデルフィア連銀景気指数
	米 5 月コンファレンスボード景気先行指数
0 6 月 2 0 日 (金曜日)	5 月食品スーパー売上高
	マレーシア 5 月消費者物価
	5 月コンビニ売上高
	EU 財務相理事会(ブリュッセル)
	サッカーブラジル W 杯 1 次リーグ 日本×ギリシャ

この週末に興味深く読んだ英文記事があった。その記事には、「今年に入って S&P が新高値で引けたのは 19 回あり、ダウ工業株 30 種平均は 10 回新値を更新して水準としては 17000 ドルに初めて接近した。この株価上昇の期間中、マーケットは静かであり、大きな価格変動は希であった。例えば S&P 500 は 4 月 16 日以来、1 日で 1% 以上の上げ、または下げを記録していない」と書いてあった。

先週筆者は「不思議な静寂」という単語を使って最近の市場を表現したので、「同じよう

な観点で市場を見ている人もいる」と思った。問題はこの「不思議な静寂」が続くのかどうかだ。今週は FOMC があり、恐らくまたまたの量的緩和量の 100 億ドル削減が決まる。はたしてアメリカの長期金利はどう動くのか。筆者は今回の場合は「金利上昇」の役割を果たすのではないか、と思っている。それはいろいろなところで価格上昇の兆しが世界経済の中に出ているからだ。むしろ「静寂」の印象を残した金利上昇になると思う。よって株価トレンドには響かず、為替相場を静かに動かすのだと思う。

むしろ「米 5 月消費者物価」など指標でも注目すべきものが多い。

《 have a nice week 》

週末はいかがでしたか。「静かに降り続く雨」という昔慣れ親しんだ「梅雨」にはあい相応しくない「局地的集中豪雨」が各地で見られるのが今年のこの時期の特徴でしょうか。その代わり時々夏のような天気になる。関東地方は日曜日がそうでした。まだまだ「梅雨」の季節は続きます。従来の「梅雨」の概念は捨てて、この「どちらかと言えば荒れた」季節を送りましょう。

それにしても、眠いですね。夜中過ぎから試合が始まり、朝まで続く日が続く。この週末から一日三試合、四試合体制。生で見ても録画しても十分に一試合 2 時間かかるので、容易なことではない。まあでも面白いからつい見てしまいますよね。スペインーオランダなどは「こんなこともあるんだ」と思いながら見ていました。

日本の敗戦はやはりショックですね。押され気味の中でも本田が先制したので、「これで選手の動きが良くなるのか」と期待して見ていたのですが、ボールは取りに行かないし、ひくしで全員が体調悪いのかなと思うほど躍動感がなかった。と思っていたら後半にコートジボアールのドログバが出てきたら一気に試合が動いて立て続けに 2 点取られて、その後もここ数試合で見られた反発力もなし。なによりも日本はシュートを殆ど打っていない。香川ゼロ、岡崎ゼロと。

立て直しを期待したいところですが、その間も他の国の試合は続く。楽しみではありません。今のところ一番記憶に残ったシュートは、オランダのファンベルシーのあのヘッドでの同点シュート（対スペイン）かな。キーパーが出てきたのを見逃さなかった。普通の選手ならそれでもトラップして足元に落とし、それからと考えるじゃないですか。それを一気にループのようなヘッド。たったパス 2 本で一点とった。彼の地面への落ち方も綺麗でした。蝶が舞い降りるようで。これからも凄いシュートが生まれそう。

パスサッカーもいいが、今年のワールドカップはスペインが大敗したことで示されるとおり、再び「縦の重要性」が認識される大会になりそう。日本にもギリシャ、コロンビアに勝って是非イタリアと再度対戦して、コンフェデのリベンジで世界を驚かせて欲しい。日本の選手達もそれを望んでいるでしょう。もう固くなる必要もないのだし。

それでは皆さんには良い一週間を。

《当「ニュース」は三井住友トラスト基礎研究所主席研究員の伊藤(E-mail ycaster@gol.com)の相場見解を記したものであり、三井住友信託銀行の見通しとは必ずしも一致しません。本ニュースのデータは各種の情報源から入手したものです。正確性、完全性を全面的に保証するものではありません。また、作成時点で入手可能なデータに基づき経済・金融情報を提供するものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定はお客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。》